

平成 17 年度病害虫発生予察 予報第 4 号

平成 17 年 7 月 15 日
長崎県病害虫防除所長

【気 象（平成 17 年 7 月 8 日発表 1 か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、平年と同様に、期間の前半は曇りや雨の日が多く、後半は晴れる日が多いでしょう。

向こう 1 か月の気温は平年並か高く、降水量、日照時間はいずれも平年並でしょう。

週別の気温は、1 週目は平年並か高く、3 ~ 4 週目は平年並でしょう。

要素別確率		単位（％）	
要 素	低 い （少 ない）	平年並	高 い （多 い）
気 温	2 0	4 0	4 0
降 水 量	3 0	4 0	3 0
日 照 時 間	3 0	4 0	3 0

* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

向こう 1 か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病（穂いもち） 紋枯病 穂吸汁性カメムシ類	やや少 並 並	やや少 やや多 やや多
普通期水稲	いもち病（葉いもち） 紋枯病 縞葉枯病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	やや少 並 やや多 やや多 やや多 やや多 やや少	やや少 やや多 やや多 やや多 やや多 やや多 並
大豆	ハスモンヨトウ	-	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病	並 並	並 やや多
かんきつ	かしよう病（注意報第 3 号） 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	多 少 少 やや多	多 やや少 やや少 やや多
び わ	ナシヒメシンクイ	やや多	やや多
ぶ どう	べと病	やや少	並
な し	ナシヒメシンクイ	やや多	やや多
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ クワシロカイガラムシ （注意報第 2 号を継続）	少 並 やや少 少 並 やや多	やや少 並 やや少 少 並 やや多

【早期水稻】 ()内は平年値 [以下同じ]

1. いもち病(穂いもち)

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査(35筆)の結果、葉いもちの発生株率は0.6%(3.0%)、発生圃場率20.0%(23.5%)であった。

(2) 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、葉いもちの発生を認めなかった(発生株率0.3%)。

2. 紋枯病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査(35筆)の結果、発生株率は0.5%(0.5%)、発生圃場率は14.3%(15.8%)であった。

(2) 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生株率5.0%(33.9%)であった。

(3) 向こう1か月の気温は平年並が高い見込みであり本病の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に散布する。

3. 穂吸汁性カメムシ類

1) 発生程度 やや多

2) 予報の根拠

7月上旬の雑草地におけるすくい取り調査(25地点)の結果、10回すくい取り当たりの虫数は16.9頭(14.1頭)で、アカスジカスミカメの発生がやや多かった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 出穂期以降の除草は本田へのカメムシ類の飛来を助長するので行なわない。

(2) 本田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布すると効果が高い。また、周辺雑草地も含めて広域一斉防除をおこなうと防除効果が高まる。

表 雑草地におけるすくい取り調査結果(7月上旬調査)

種類名	H13	H14	H15	H16	平年	H17
ホリハリカメムシ	0.8	0.6	0.3	1.6	1.3	0.7
クモヘリカメムシ	0.1	0.02	0	1.6	1.2	0.02
シラホシカメムシ	0.3	0.2	0.2	0.7	0.5	0.3
アカスジカスミカメ	12.2	6.6	4.9	13.8	11.1	15.9
計	13.4	7.4	5.4	17.8	14.1	16.9

注) 数値は10回すくい取り当たりの虫数
平年値はH7~16年の最大最小値を除いた平均値

【普通期水稻】

1. いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査(122筆)の結果、発生株率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は2.5%(4.0%)であった。

(2) 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった

- (発生を認めない)。
 (3) BLASTAM(葉いもち感染好適日判定モデル)によると、7月以降は準感染好適条件が大瀬戸で7月3日に認められたのみで、感染好適条件は認められていない(表)。

表 7月以降のBLASTAM判定結果

	鰹浦	巖原	芦辺	平戸	松浦	佐世保	有川	大瀬戸	長崎	島原	福江	口之津	野母崎
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注) : 感染好適条件
 ~ : 準感染好適条件
 ? : 判定不能

2. 紋枯病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査(122筆)の結果、発生株率は0.1%(0.03%)、発生圃場率は1.6%(1.1%)であった。

(2) 7月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

(3) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり本病の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に散布する。

3. 縞葉枯病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査(122筆)の結果、発生株率は0.05%(0.00%)、発生圃場率は4.1%(1.2%)であった。

(2) 7月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生株率0.3%)。

(3) 7月上旬の巡回調査(122筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.01頭(0.03頭)、発生圃場率は6.6%(8.1%)であった。

3) 防除上注意すべき事項

長期残効性箱施薬剤を用いていない圃場ではヒメトビウンカの発生に注意する。

4. セジロウンカ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 7月1~2半旬に連続的に飛来が認められ、7月5日にやや多い飛来が認められた(表)。

(2) 7月上旬の巡回調査(122筆)の結果、株当たり虫数は1.5頭(0.7頭)、発生圃場率は97.5%(41.5%)であった。

(3) 7月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、株当たり虫数は11.0頭

- (2.2 頭) であった。
 (4) 向こう 1 か月の気温は平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。
 3) 防除上注意すべき事項
 平成 17 年 7 月 8 日付、病害虫発生予察 防除情報第 9 号参照

5 . トビイロウンカ

1) 予報内容

発生程度 やや多

発生時期 7 月 2 半旬飛来波による第 1 世代成虫最盛期 8 月 2 半旬

2) 予報の根拠

- (1) 7 月 2 日に予察灯 (諫早市) で初確認し、7 月 10 日にまとまった飛来が認められた (表) 。
 (2) 7 月上旬の巡回調査 (122 筆) の結果、株当たり虫数は 0.01 頭 (0.00 頭) 、発生圃場率は 8.2 % (1.1 %) であった。
 (3) 7 月 3 半旬の県予察圃場 (無防除) 調査の結果、株当たり虫数は 0.04 頭 (0.02 頭) であった。

3) 防除上注意すべき事項

圃場の見回りを徹底し発生状況の把握に努める。8 月上旬頃に短翅型雌成虫が 100 株当たり 20 頭以上認められる場合は防除を行う。

表 予察灯における誘殺状況

月日	セジロウンカ							トビイロウンカ						
	諫早			西彼	佐世保	島原	岐宿	諫早			西彼	佐世保	島原	岐宿
	白熱	青色	ネット	青色	白熱	白熱	白熱	白熱	青色	ネット	青色	白熱	白熱	白熱
7/1	0	5	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	5	37	2	0	15	23	4	1	0	0	0	0	0	0
3	3	9	5	0	5	2	12	0	0	0	0	0	0	0
4	83	302	5	0	207	38	10	0	0	0	0	0	0	0
5	643	1320	35		314	1600	812	0	1	0		0	0	0
6	146	58	9				3	0	0	0				0
7	1258	1635	0				170	0	0	0				0
8	13	30	12				0	0	0	0				0
9	-	6	34					0	0	0				
10	-	133	9					0	4	0				
11	-	8	2					0	0	0				
12	34	72	0					3	0	0				

注) 表中の - は欠測

6 . コブノメイガ

1) 予報内容

発生程度 並

発生時期 7 月 5 日飛来波による第 1 世代成虫発生最盛期 8 月 1 半旬

7 月 9 日飛来波による第 1 世代成虫発生最盛期 8 月 2 半旬

2) 予報の根拠

- (1) 7 月 1 日以降連続的に飛来が認められ、7 月 5、9 日にまとまった飛来が認められた。
 (2) 7 月上旬の巡回調査 (122 筆) の結果、食害株率は 0.5 % (3.3 %) 、発生圃場率は 25.4 % (24.7 %) であった。
 (3) 7 月 3 半旬の県予察圃場 (無防除) 調査の結果、食害は認められなかった (食害株率 28.5 %) 。
 (4) 向こう 1 か月の気温は平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。

【大 豆】

1 . ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は平年並で7月1半旬以降増加傾向にある(図)。

(2) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

圃場において白変葉が散見されるようになったら早めに防除をおこなう。

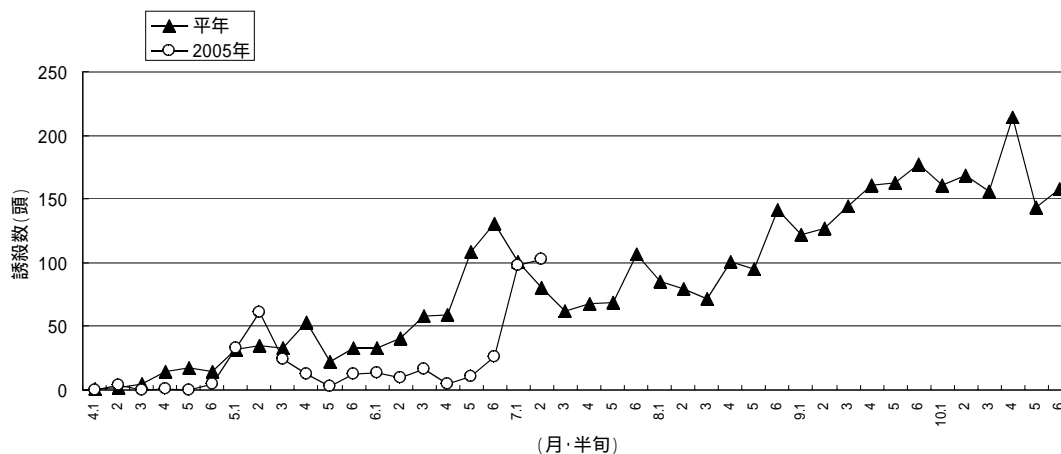


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市)
平年:H7~H16の平均値(最大・小値除く)

【いちご】

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は5.5%(9.1%)、発生圃場率5.2%(5.3%)であった。

2. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、*C. acutatum*(通称:葉枯炭疽病)の発生は認めなかった(発病株率0.4%、発生圃場率7%)。また、*G. cingulata*の発生も認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率2%)。

(2) 病害虫防除所への診断依頼及び病害虫防除員の調査結果では、7月に入り育苗床の子苗において炭疽病、葉枯炭疽病の発生が確認された。

(3) 7月上旬の強風雨で感染が広がった可能性がある。

(4) 向こう1か月の気温は平年並みか高く、降水量、日照時間は平年並と予想されており、本病の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 育苗床は雨よけ、高設、全面マルチなどを行い、降雨等の影響を少なくし、病原菌の感染防止対策を徹底する。

(2) 育苗床が多湿にならないように、適切なポット間隔および植栽密度で管理する。また、灌水時間、灌水量などを適切にするとともに、排水対策など確実にを行う。

(3) 発病株は速やかに除去する。また、その周辺の株もあわせて処分し、圃場内や周辺に放置しない。

(4) 薬剤散布を定期的に行う。*C. acutatum*による炭疽病(通称:葉枯炭疽病)には、バイコラール水和剤の防除効果は低いので注意する。

【かんきつ】

1. かいよう病
平成17年7月14日付、病害虫発生予察 注意報第3号による。
2. 黒点病
 - 1) 予報内容
発生程度 やや少
 - 2) 予報の根拠
 - (1) 7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率4.3%発生圃場率24.8%)。
 - (2) 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並の見込みである。
3. ミカンハダニ
 - 1) 予報内容
発生程度 やや少
 - 2) 予報の根拠
 - (1) 7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は1.4%(13.2%)、発生圃場率は23.1%(50.3%)であった。
 - (2) 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並の見込みである。
4. チャノキイロアザミウマ
 - 1) 予報内容
発生程度 やや多
 - 2) 予報の根拠
 - (1) 県予察圃場における黄色粘着トラップ調査の結果、誘殺量は平年よりやや多かった(図)。
 - (2) 7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、果梗部の被害果が1.6%(0.5%)、発生圃場率が30.8%(5.8%)だった。
 - (3) 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並の見込みであり、本虫の発生に好適である。
 - 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 下表の予測発生ピーク日を中心に薬剤散布による防除を行う。
 - (2) 発生圃場では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達してから防除を行う。
 - (3) 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる発生ピーク

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川
第4世代	7/21	7/20	7/25	7/18	7/21	7/22	7/17	7/17
第5世代	8/7	8/6	8/12	8/4	8/7	8/8	8/3	8/4

- 注1：発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。
 注2：プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュを利用。
 注3：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

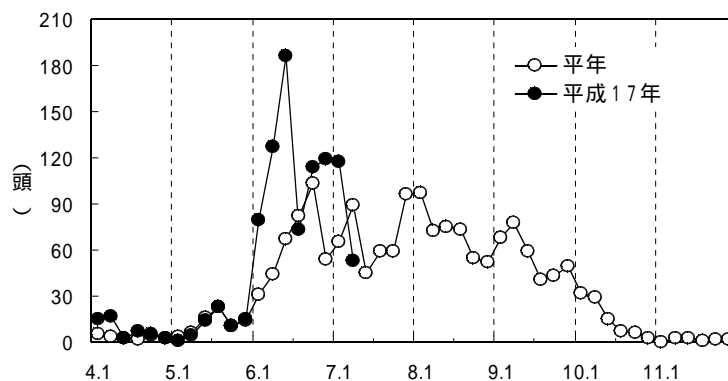


図 チャキロアサミマの誘殺状況(諫早:黄色粘着トラップ) (月・半月)
* 平年値は平成7～16年の平均

【びわ】

ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場におけるフェロモントラップ調査の結果、誘殺量は平年よりやや多かった(図)。

(2) 7月上旬の県予察圃場調査の結果、発生枝葉率は3.0%(0.9%)で平年よりやや多かった。

3) 防除上注意すべき事項

食入口ががんしゅ病の感染拡大の要因となるので、がんしゅ病と同時に防除する。

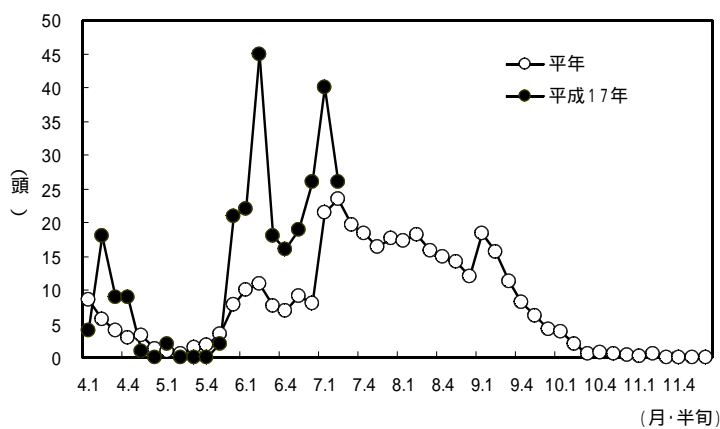


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早:フェロモントラップ)
* 平年値は平成7～16年の平均

【ぶどう】

べと病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生は認められなかった(発病葉率0.4% 発生圃場率16.7%)。

(2) 7月上旬の降水量が多かった。

【なし】

ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

発生程度 やや多

- 2) 予報の根拠
 - (1) 県予察圃場におけるフェロモントラップ調査の結果、誘殺量は平年よりやや多かった(びわの項の図参照)。
 - (2) 有家町の防除員からの報告によると、果実被害が発生している。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 薬剤散布後も発生が多いなし園では、その後も10日おきに薬剤散布による防除を行う。
 - (2) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため同系統の薬剤を連用しない。

【果樹共通】

果樹カメムシ類

- 1) 予報内容

発生程度 少
- 2) 予報の根拠
 - (1) フェロモントラップによる誘殺量(諫早市)は平年より少なかった。
 - (2) 6月21~22日に行ったビーティング調査ではスギ、ヒノキでの成虫の寄生は認められなかった。

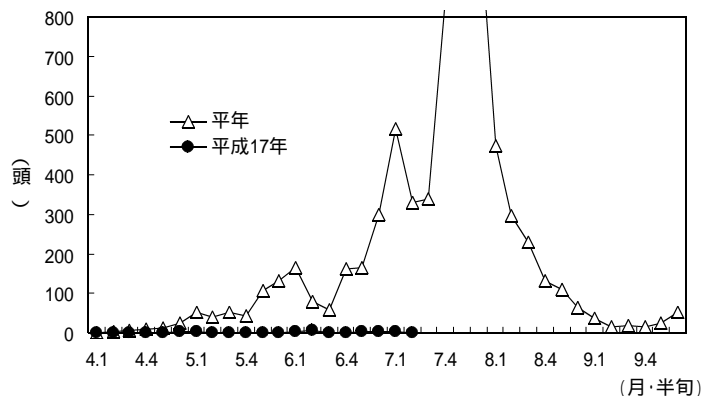


図 チャバネ・ツアアオカメムシの誘殺状況(諫早:黄色コガネコール)
* 平年値は平成7~16年の平均

【茶】

1. 炭疽病
 - 1) 予報内容

発生程度 やや少
 - 2) 予報の根拠
 - (1) 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1m²当たりの病葉数は0.6枚(9.2枚)、発生圃場率は25.0%(67.1%)であった。
 - (2) 7月上旬の降水量が多かった。
 - (3) 向こう1か月の気温は平年並が高く、降水量は平年並の見込みである。
2. チャノキイロアザミウマ
 - 1) 予報内容

発生程度 並
 - 2) 予報の根拠
 - (1) 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は10.8頭(17.9頭)、発生圃場率は80.0%(81.1%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

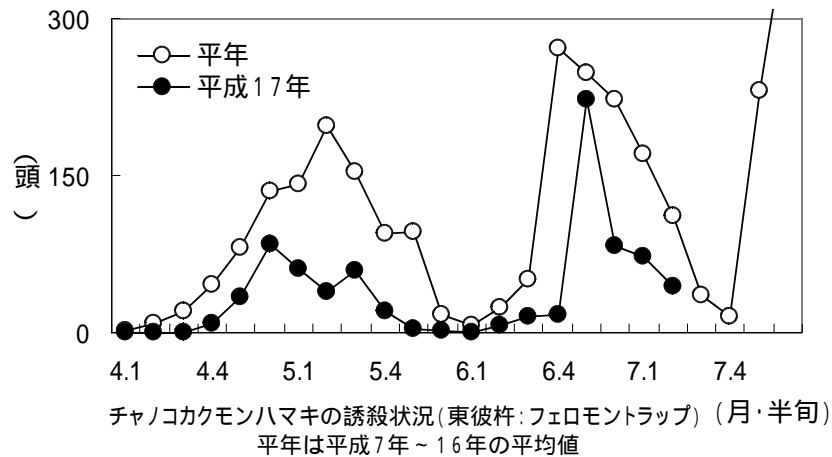
1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.3枚 発生圃場率 13.5%)。

(2) フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵町)はやや少なかった(図)。



4. チャノホソガ

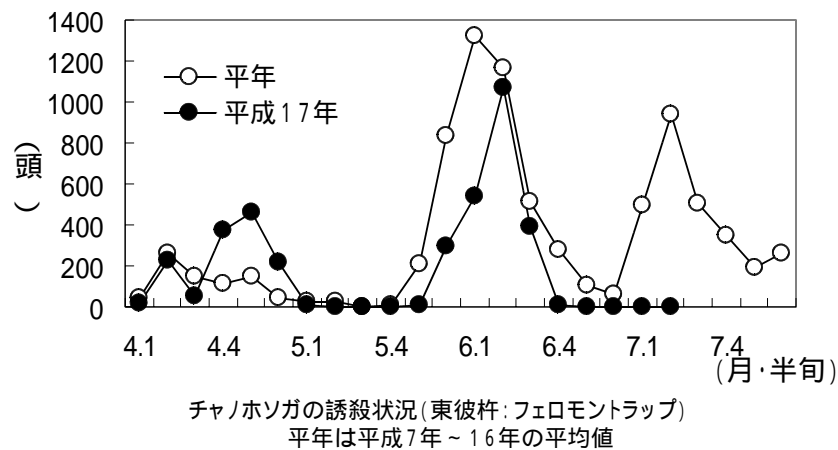
1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.1枚 発生圃場率 5.2%)。

(2) フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵町)は少なかった(図)。



5. カンザワハダニ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

1) 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.4%(0.3%)、発生圃場率は25.0%(9.6%)であった。

6. クワシロカイガラムシ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は7.2%(2.8%)、発生圃場率は65.0%(21.9%)だった。

3) 防除上注意すべき事項

平成17年7月5日付、病虫害発生予察 注意報第2号参照。